

1. はじめに

日本の道路橋は、橋長2m以上のものが約73万橋あるが、このうち橋長15m以下のものが58万橋を超える。これらの橋梁を今後も安全に供用していくため、市町村レベルでも「橋梁長寿命化計画」が策定されてきている。そのため、自治体の負担軽減、施工の容易性で優位な埋設型ジョイントの需要が高まりつつある。

この手引き書は、埋設型ジョイントの設計・施工をご担当される皆様にご愛読いただき、MMジョイントDS型の特徴を生かした設計・施工により、信頼できる埋設ジョイントを構築されることを目的としている。

2. 伸縮装置の概要

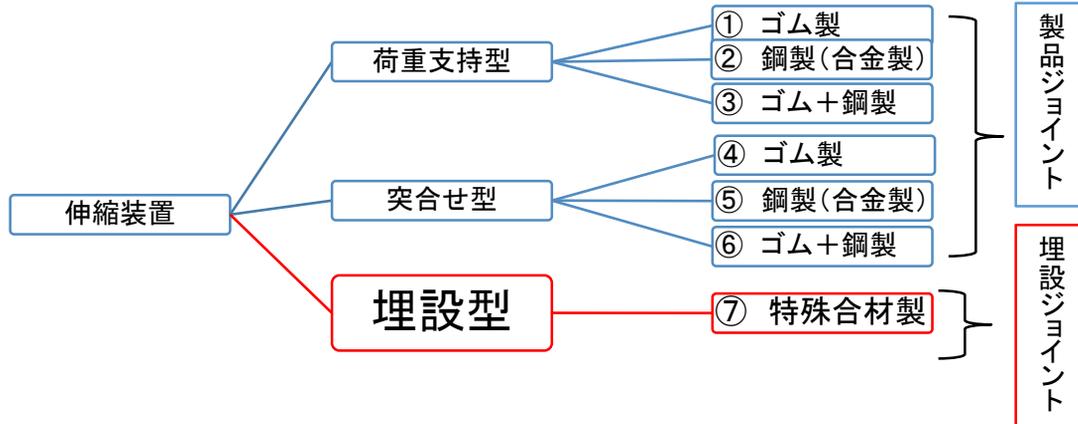
橋梁では、温度変化の影響による主桁や主構の伸縮を吸収するためや、耐震性向上のために、上部構造と橋台や道路などを直接剛結せず、伸縮を吸収する部材を介して接合するのが一般的である。主に鋼製のフィンガージョイント、ゴムジョイント、両者の中間である簡易鋼製型、又埋設型などがある。伸縮装置は交通荷重が直接作用するため、橋梁の中でも最も傷みやすく、段差が生じやすい箇所である。

橋桁は、温度変化により、伸び縮みする。
それを受け止めるために伸縮継手が必要である。



3. 伸縮装置の種類

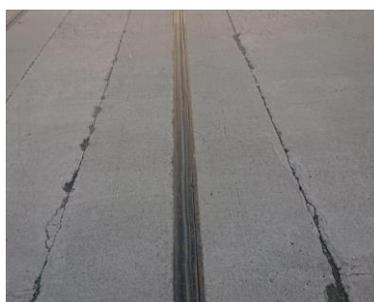
伸縮装置は構造的に、荷重支持型、突合せ型、埋設型の3種類に分類される。



荷重支持型



突合せ型



埋設型

